

抗 Taf6 (*S. cerevisiae*) 抗体, ウサギポリクロ

62-013 100 µl

保存温度: 4°Cで輸送、-20°Cで保存

反応性: 出芽酵母 Taf6 タンパク質

免疫原: 組換え体 His-tag 付 Taf6 タンパク質 (N 末端 1-200 aa)

用途: ウェスタンブロット (1/1,000-1/5,000)

性状: ウサギ抗 Taf6 抗血清、0.1% アジ化ナトリウム添加

基本転写因子 TFIID は、真核生物の遺伝子発現調節において中心的な役割を果たすことが知られており、TATA ボックス結合タンパク質 (TBP) と 14 種類の TBP 随伴タンパク質 (TAF) から成る巨大なタンパク質複合体である。TFIID は、転写開始点近傍に存在する各種のコアプロモーターエレメントを直接認識して結合し、他の基本転写因子群が集合するための足場を形成するとともに、転写調節因子に由来する転写活性化シグナルを RNA ポリメラーゼ II に伝達する役割を持つとされている。Taf6p は TFIID サブユニットの一つであり、出芽酵母の場合、516 個のアミノ酸残基 (aa) から構成される。また Taf6p は TFIID と重複した機能を持つとされるヒストンアセチラーゼ複合体 SAGA のサブユニットにもなっている。このタンパク質は内部にヒストンフォールドを持ち、Taf4p, Taf9p, Taf12p とともに TAF 八量体を形成する。

データリンク SGD [TAF6/YGL112C](#)

文献: 本抗体は以下の論文に記載され、使われている。

Takahata S et al "Autonomous function of the amino-terminal inhibitory domain of TAF1 in transcriptional regulation." *Mol Cell Biol* **24**: 3089-3099 (2004) PMID: [15060133](#) WB

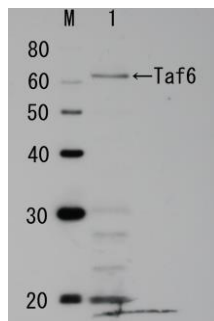


図. ウェスタンブロット法による出芽酵母祖抽出液中の内在性 Taf6 タンパク質の検出

M: タンパク質サイズマーカー (kDa)

1: 出芽酵母細胞抽出液

抗血清は 5,000 倍希釈して使用

Taf6 タンパク質の分子質量は 60 kDa